



衣川 実介

## 『河合鋼鐵（株）の活躍』

ヨーロッパで開発されたステンレス鋼はどのようにして日本に持ち込まれたのでしょうか？

それには河合鋼鐵（株）と言う会社が大きく関わっています。社名は聞いたことがないと言われる方でも『東郷ハガネ』はご存じの方も多いことでしょう。江戸時代から続く鉄と鋼の販売会社、井坂屋が将来の鋼（はがね）の需要が高まること、ヨーロッパの製鉄が日本より大きく進んでいたことに注目し、輸入を始めたのです。明治10年（1876）洋鋼を東京で販売。当時国産の和鉄・和鋼と区分するため、輸入品はこう呼ばれていました。

何度も社名変更を繰り返していますが、河合鋼鐵（株）という名称で111年史を、昭和58年8月に発行しています。

板状の鋼や角材を輸入したことによりノコギリや大工道具の産地に大きな変革をもたらしました。従来は鋼の塊（玉鋼）を使って大きな前挽鋸（まえびきのこ＝おが）を作っていた土佐の産地では一つを作るのに一週間近くかかって作っていた物が、約六分の一の時間、一日で出来るようになりました。最初に洋鋼を使った鍛冶屋はその素材のことを隠していましたが、業界内であまりにも手早く製品が完成することを知られ、洋鋼のことが伝搬してしまいました。ちなみに『鉄のふしぎ博物館』に展示している前挽鋸（おが）は洋鋼を使って、三重県で明治時代に作られたものです。

（寄贈 岡崎 清 様 京都市在住）

この河合鋼鉄は新しい手法や試みを多く行って時代を引っ張ってゆきました。それらの一部を書きとどめます。



- ①洋鋼の輸入 M10    ②自社ブランド『東郷ハガネ』誕生 M39    ③商標、ラベル貼り付け M39
- ④洋鋼虎の巻 発刊 M41                    ⑤自社規格の商品を輸入販売『東郷ハガネ』 M42
- ⑥サビない『東郷ハガネ』販売開始 T11    ⑦用語の統一『ハガネ』 T14

⑧エバーライトスチール（SUS304）の発売 S 4                    （7月号に掲載予定）

⑨ステンレス灯籠、鶴岡八幡宮に奉納 S15                    （8月号に掲載予定）

鋼（はがね=steel）刃金とも書いた：東郷ハガネではカタカナ表記で統一した。鉄を主成分とし、ふつう2.0%以下の炭素と、その他の元素を含む材料です。炭素だけを含む炭素鋼とその他の元素を含む合金鋼とがあります。

### 河合鋼鐵（株）略歴

西暦	和暦	社名	事項
1871	明治3～4	井坂屋	創業
1906	明治39	河合洋鋼店	改称
1910	明治43	河合鋼商店	改称
1938	昭和13	(株)河合佐兵衛商店	改称
1967	昭和42	<b>河合鋼鐵(株)</b>	改称
1989	平成元	(株)カワイスチール	改称
1995	平成7	(株)住商ハガネ 住友商事と共同	設立
2001	平成13	(株)カワイスチールホールディング	改称

鎖づくりに興味のある方はぜひごらんください。

『鎖ができるまで』の鑑賞方法。  
サイエンスチャンネルに接続  
<http://sc-smn.jst.go.jp/>  
番組表で左の検索枠に入力  
『鎖ができるまで』  
検索ボタンをクリック



### 参考資料

河合鋼鐵 111年のあゆみ 昭和58年8月河合鋼鐵（株）

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/>

e-mail [ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/ryou@memenet.or.jp>